

令和4年度第1回歯科保健医療対策会議要旨

日時：令和4年12月22日（木）13:30～14:30

場所：富山県民会館 611号室

主な意見は以下のとおり。

部会で、本日いただいた意見も踏まえ検討。部会の結果をもとに来年の2月に第2回の会議を行う。年度内に最終評価を公表予定。

- ・働く世代での歯周病が増加している。今年骨太方針の中に国民皆歯科健診をやろうと国からも示されており、県として取り入れていくのであれば、私ども働く世代としても、全面的に協力をしていきたい。

(会 長) コロナ禍でこの3年間、なかなか思うように、歯科健診ができなかった。県の方で取り組みをどのように考えているのか。

(事務局) 国民皆歯科健診とか国の方でも言われているところで、国でも次期基本的事項の策定を今進めている。こちらの内容も確認、注視しながら、県の方でも、どのように取り組んでいけばよいか検討していきたい。

- ・3歳のむし歯のない子どもが増加しているのは、とてもよい傾向だと思う。5歳のむし歯がない子どもの目標値70%達成度がAであるが、逆に言うと3割がむし歯というのは多いので心配になった。
- ・子どもたちに歯みがきの習慣を持ってもらうためには、やらせるのではなく、楽しい時間というような認識を持ってもらえる対応をしながら、習慣化させていければなというふうに思う。
- ・フッ化物洗口を実施している学校施設の増加のところが、ちょっと減少している。フッ化物洗口の効果があるのか、相関関係が明らかになるとフッ化物洗口を促進していく意味があると思う。

(会 長) データ的にもフッ化物洗口の効果は出ている。コロナ禍で、フッ化物洗口を遠慮している学校があり評価が低い。

- ・達成状況がE（評価不能）というのがいくつかあり、ここまでの10か年計画でやってきたものの最終評価が評価不能というのは、少しいかがなものかと思った。人生を過ごしていく中で80歳までというのは、歯の病気の進行が大きいと思う。最終的な目標が8020であれば、本当の最終目標は、21番の80歳で20本以上これが一番の目標だと思う。それを達成するために各項目が途中のマイルストーンであるのだと考える。

(会 長) 8020は、最終の目標ではなく口の中に20本歯があれば、しっかり物が食べられるという最低のところということで、進めている。

(事務局) 評価不能について、補足する。評価不能としたのは、今回、ベースラインと比較してということであり、こちらの資料については数値がなかったので、今回評価不能としている。中間評価値と比べると、ちょっと悪化しているというのが現状。

- ・皆歯科健診の話があった。定期健診があれば、意識が高まる。
- ・14番（過去1年間に歯科健康診査や専門家による口腔ケアを受診した者の増加）について。これは、歯が痛ければ歯医者に行くと思うが、痛くないけど定期的に健診を受けているとか、ケアの

相談をしている方が50%前後いるという考え方でよいか。

(事務局) こちらの把握の仕方は、すべての方に調査したわけではなく、調査票を送り、この1年間に歯科健康診査を受けたことがあるか、専門家による口腔ケアを受診したことがあるかを聞き集計したもので、自覚症状があって受診したかとかというところまでは確認していない調査方法となっている。治療に行ったついでにケアを受けた方も含まれる可能性もある。

- ・歯間部清掃器具を使用している者が増えているのに歯周病が増えているということは、その使い方が間違っているのではないか。フッ化物洗口の学校が、10年も経っているのに、改善が見られていない。もし市町村間での格差があるのなら、ぜひこの格差を縮小するために、市町村での助成をお願いしたい。3歳児に不整咬合が多くなる。「三つ子の魂100までも」と言われるように大事な時期なので、母体の時から気をつけていかなければと思う。
- ・医療面では、協力医療機関ということで、一定程度定着していると思う。一方、歯科の面については、各施設によってばらつきがあると思う。県や対策会議を通じて、いろいろな報告提供や発信をしてもらえれば、老人福祉協議会員施設に協会を通じて、連絡したい。
- ・障害を持っている方は、口をあけてくれなかったり過敏の方がいたりして、ケアは難しい部分が多くさんある。誰が口腔ケアをするのか。本人が難しいと支援者の方にしてもらうのか、今後探していくのか、誰がしっかりやるかということが重要。大きい法人では、定期的健診をしっかりとやっているところが多いが、小さいところは、予算の関係もあり難しいところもある。
- ・在宅療養支援歯科診療所の数について。ベースラインが11で、中間評価が71、最終評価55ということで、ベースラインから見たら55で増という意味なのか。平成29年に71まで上がったところが55まで下がっているのは、どうして減ったのか。県内全体で満遍なく在宅療養支援診療所数があるのか。

(事務局) 在宅療養支援歯科診療所は、一旦増えて減っているという現状。診療報酬上の名称で施設基準等があり、増減は生じてしまう。在宅療養支援歯科でなくとも訪問歯科診療は歯科診療所ができる、県内各地にある。

- ・皆さんの発言を聞きながら、自分の町はどうなっているのかと考えていきたいと思う。
- ・成人の検診は、がん検診、日帰りドッグ等たくさんあるが、歯科が非常に弱い。ですから、これは何かしたいと思う。25年からの国民皆歯科健診は、あまり先走ってできないが、そちらを受けたいという思いを持っている。

(会長) 25年を待たなくても40歳以上の節目健診もある。その部分をしっかりと受けてほしい。企業健診もぜひ受けてほしい。そうすれば、それに繋がって25年がよいスタートができると思う。

- ・歯周疾患のところは、意識の低い方を健診で拾って、受診につなげることが大事。
- ・新潟のある所では、小さいときからずっとフッ化物の洗口をしている人は大人になってもむし歯はなかったと聞いている。そういうふうに具体的に効果がでていっているので、フッ化物洗口は続けていったらよい。